

公共事業再評価調査

主管課：都市整備・モラル課

1 事業概要  (整備目的)	事業名：街路事業(真栄里新川線(新川工区))			
	事業種別：地域連携推進事業	事業主体：県	当初事業期間：H7～H14	
	事業箇所：石垣市宇新川	根拠法令：都市計画法	事業期間：H7～H17	
	総事業費(百万円)：2,248	費用内訳：補助 9/10	事業量：508m	
	当路線は、石垣市の中心市街地を東西に横断する幹線街路である。沿線は商店街を形成しており、八重山地方の商業の中心となっている。しかしながら、現道は幅員が狭小で歩車道の区別もなく、交通安全上問題のある路線となっている。当路線を整備することにより、安全で快適な歩行者空間を形成するとともに、中心市街地における機能的な道路網の形成を図るものである。			
2 再評価 該当項目	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業採択後10年間を経過 <input type="checkbox"/> ② 事業採択後5年間を経過して未着工 <input type="checkbox"/> ③ 再評価後一定期間( 年)を経過 <input type="checkbox"/> ④ 事業の中止 <input type="checkbox"/> ⑤ その他 ( )			
3 再評価に至った主な要因 (具体的理由)	<input checked="" type="checkbox"/> ① 用地取得の困難 <input type="checkbox"/> ② 調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③ 事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④ 予算の確保 <input type="checkbox"/> ⑤ 手続き・法令の問題 <input type="checkbox"/> ⑥ 他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦ 整備効果の問題 <input type="checkbox"/> ⑧ 当初計画が長期間 <input type="checkbox"/> ⑨ その他 ( ) 用地物件の補償が94%、工事も70%進捗しているが、補償額の了解が得られず難航している箇所が2件あり、権利者の説得に時間を要している。			
4 事業の 進捗状況 (H16.3時点)	項目	事業費(百万円)	整備(m)	用地取得(千㎡)
	計画	2,248	508	3.01
	実施済	2,136	355	2.84
	率	95%	70%	94%
5 事業効果の 評価指標  (検討年40年) (基準年H16) (単位:百万円)	① 走行時間短縮便益 14,400 ② 走行経費低減便益 700 ③ 交通事故減少便益 0  総便益 15,100 基準年換算 (B) 6,200	① 事業費 5,400 ② 維持管理費 200  総費用 5,600 基準年換算 (C) 5,900	費用便益比 (B/C) = 6200 / 5900 = 1.1	
6 事業を巡る 状況の変化	① 社会・経済：八重山圏域への観光客数の増加に伴い、中心市街地の道路網を形成する当該路線の交通需要も高まっている。 ② 地元・自治体 当該路線は交通量が多いにもかかわらず、歩道が設置されておらず、危険であるため歩行者の安全の確保に関し地元・自治体から早期整備の要望がある。 ③ 利害関係者：交渉が難航している地権者がいる。			
7 事業の必要性・効率性	① 事業の必要性・緊急性・有効性など： 現道は幅員が狭小で歩車道の区別もなく、交通安全上問題のある路線となっている。当路線を整備することにより、安全で快適な歩行者空間を形成するとともに、中心市街地における機能的な道路網の形成を図る必要がある。 ② 事業の効率性(代替案等の可能性やコスト削減)： 当路線はこれまで全線の約70%を整備済みであり、また用地も94%を取得しており現計画の推進が効率的である。 ③ 事業効果の発現状況 現在、355mを供用しており、車両通行や歩行者の安全が確保されている。			
8 今後の対応 ・見直し	① 事業計画等：H17年度の完成を目指す。 ② 対住民関係：用地の取得に鋭意努力し、地権者の理解を求めていく。 ③ 執行体制等：現在の組織体制で執行が可能である。			
9 対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業継続(現計画) <input type="checkbox"/> ② 事業継続(見直し) <input type="checkbox"/> ③ 事業の中止			